

エコアクション21 環境経営レポート

令和3年度版

対象期間: 令和3年1月1日～令和3年12月31日



エコアクション21ガイドライン2017年度版

発行日: 令和4年1月20日

株式会社丹羽自動車工業

1. 組織の概要

1. 事業所名及び代表者氏名

株式会社 丹羽自動車工業

代表取締役 丹羽 昭広

2. 所在地

〒924-0051

石川県白山市福留町603番地

3. 環境管理責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者	代表取締役	丹羽 昭広
連絡担当者	工場長	松本 晃彦
電話	076-277-0002	
FAX	076-277-1148	
e-mail	info@niwa-auto.jp	

4. 事業の規模及び事業内容

法人設立年月日	1975年8月1日	
資本金	1,000万円	
従業員数	18名	
述床面積	1,169m ²	
売上高	4億 9千万円	(令和3年度:令和3年1月1日～ 令和3年12月31日)
総在庫台数	6,127台	
販売台数	新車 62台、中古車 108台	
事業内容	自動車の整備・販売、損害保険代理店業務及びレンタリース業	

2. 対象範囲

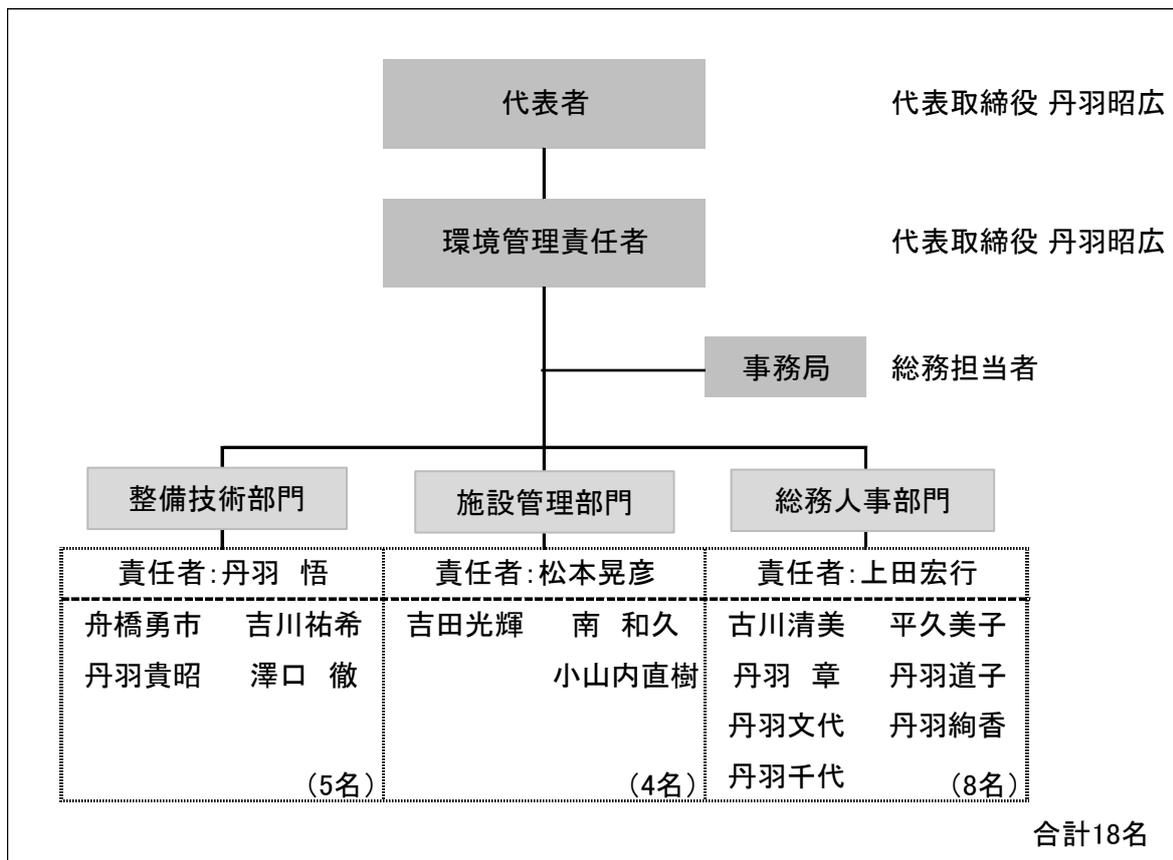
1. 認証・登録範囲	全組織	株式会社丹羽自動車工業
	全活動	自動車の整備・販売、損害保険代理店業務及びレンタリース業

2. 環境経営レポートの	令和3年1月1日～令和3年12月31日
対象期間及び発行日	令和4年1月20日発行

3. 株式会社 丹羽自動車工業

エコアクション21 推進体制表

令和3年4月1日現在



【各部門の責任者とその役割】

代表者	環境経営方針の策定
	環境管理責任者の任命
	環境保全に関する人、もの、金の提供
	エコアクション21システムの見直し
環境管理責任者	エコアクション21活動の責任者
	環境経営レポートの作成、公開
	環境経営目標、計画、実績の進捗管理
	環境関連法規の順守評価
事務局	環境管理責任者の補佐
	進捗管理のデータ収集、集計、整理
各部門及び全社員	環境経営計画の実施
	環境関連法規の順守

4. 環境経営方針

当社は、安心・安全・信頼をモットーにカーライフコンサルタントとして、我々の住むこの地域の環境保全に注力すると共に、自動車販売整備業として環境と整備の両立をはかり、環境経営方針に基づき全社員で活動を推進する。

環境問題は、自動車整備販売に携わる事業者として重要課題であり、二酸化炭素排出量水使用量及び産業廃棄物の削減に積極的に取り組む。

エコ整備の普及促進を通じて、自社はもちろん一般ユーザーにも燃料消費率向上による二酸化炭素排出量削減や排出ガスの浄化整備により、社会に貢献できるのかPRを強化していく。又、低公害車であるエコカーの販売にも努力するとともに、環境関連法規制等厳守し、企業のあらゆる活動において地球環境の保全に配慮し行動します。

(1) 二酸化炭素排出量削減の推進

事業活動において電力・ガソリン・軽油・灯油等の削減による二酸化炭素排出量削減に努めます。また、産業廃棄物の知識を従業員と共に勉強していきます。

EV・PHV車の販売促進、エコドライブの推進

(2) 産業廃棄物排出量削減の推進

事業所から出る廃棄物を最小限にする努力をします。そのために、分別処理の推進。
(紙類・廃プラ・鉄くず・ガラス類・ゴム類・ヘドロ等)

(3) 総排水量削減の推進

事務所内で使用する水使用量の削減に努める。(お客様に提供するサービスを含め)
洗車時の水使用量の削減、温水洗車機の取扱いと設定温度、除雪車使用による融雪装置使用時間の短縮。(天候等を把握の上、融雪装置使用時間の管理徹底)

(4) エコ整備・エコ車検の推進 (ユーザーによる二酸化炭素排出量削減も含む)

自動車において燃費向上による削減や、有害な排気ガスの排出量削減を目指し、エコ整備を積極的に推進する。また、社内教育を徹底しユーザーに対する的確なアドバイスが出来るよう社員全員で取り組む。(エコドライブの推進)

エンジン洗浄、エコタイヤ(窒素注入)、エコアース等の推進

(5) リサイクル活動による省資源化の推進

省資源化実現のため、リサイクル部品の使用を積極的に推進します。
(ユーザーに対し、的確な説明による販売促進)

(6) 環境関連法規制等の遵守

環境関連法規制等々につき、社内教育実施に伴い法規制を遵守する事を誓約します。

(7) 地域の人及びお客様とのコミュニケーションを大切にして地域の発展を心掛けていきます。

(8) この環境方針は、当社従業員に周知するとともに一般の人にも公開します。

平成30年1月20日

株式会社 丹羽自動車工業
代表取締役 丹羽 昭広

【環境経営方針とSDGsへの取組み】

持続可能な未来への貢献と当社が持続的に発展するために、SDGsのゴールと環境経営方針・環境経営目標を関連付け、社員一人一人がSDGsのゴールを目指して活動を続けます。

★は重点項目、●は関連項目

SDGsの目標とターゲット		3	6	7	11	12	13	15	17
		すべての人に健康と福祉を	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	住み続けられるまちづくりを	つくる責任つかう責任	気候変動に具体的な対策を	陸の豊かさも守ろう	パートナーシップで目標を達成しよう
環境経営目標		3.9	6.4	7.3	11.6	12.2 12.5	13.2 13.3	15.1	17.17
活動内容		る病壊有減して水水 のの害らての利 件汚化学す水の用 数を染物不足に続 をに物質に能可効 大幅よ及及に能率 に死び大採改善し 減及気の取を確淡 さび・大のを確淡 せ疾土	減らす	倍エ 増ネ させル るギ ー効 率の 改 善 率 を	悪に大 影注の 響意の をし質 軽及 減都 市 の 環 境 上 の 管 理	の3を天 発達然 生の成資 を推源 進すの持 ら進進 すより可 、能 廃棄物	能気 力候 を変 改動 善に す織 るに 対込 するむ 人対 的む 的す る人 的	能ス陸 なの生 利保生 用全態 を回系 確復及 保すび る持 続 可 ビ	奨社効 励会的 ・の 推パな 進ト公 、官 ナー民 ーシ、 ップ市 を民
1	二酸化炭素排出量削減の推進			●			★		
2	産業廃棄物排出量削減の推進	●				★	●	●	
3	総排出量削減の推進		★						
4	エコ整備・エコ車検の推進	●		●	★				
5	リサイクル活動による省資源化の推進			●		★			
6	環境関連法規制等の順守								●
7	地域およびお客様とのつながりを大切に								★

5. 環境経営目標とその実績

1. 令和3年度の目標

二酸化炭素排出量、二酸化炭素排出量原単位、産業廃棄物発生量、水使用量において今年度は原則として前年度実績を基準に1%削減とする目標に設定しました。

エコ整備につきましては、前年比1%増を目標と設定しました。

入庫台数につきましては、前年比1%増を目標と設定しました。

2. 過去3年間の実績と今年度の目標

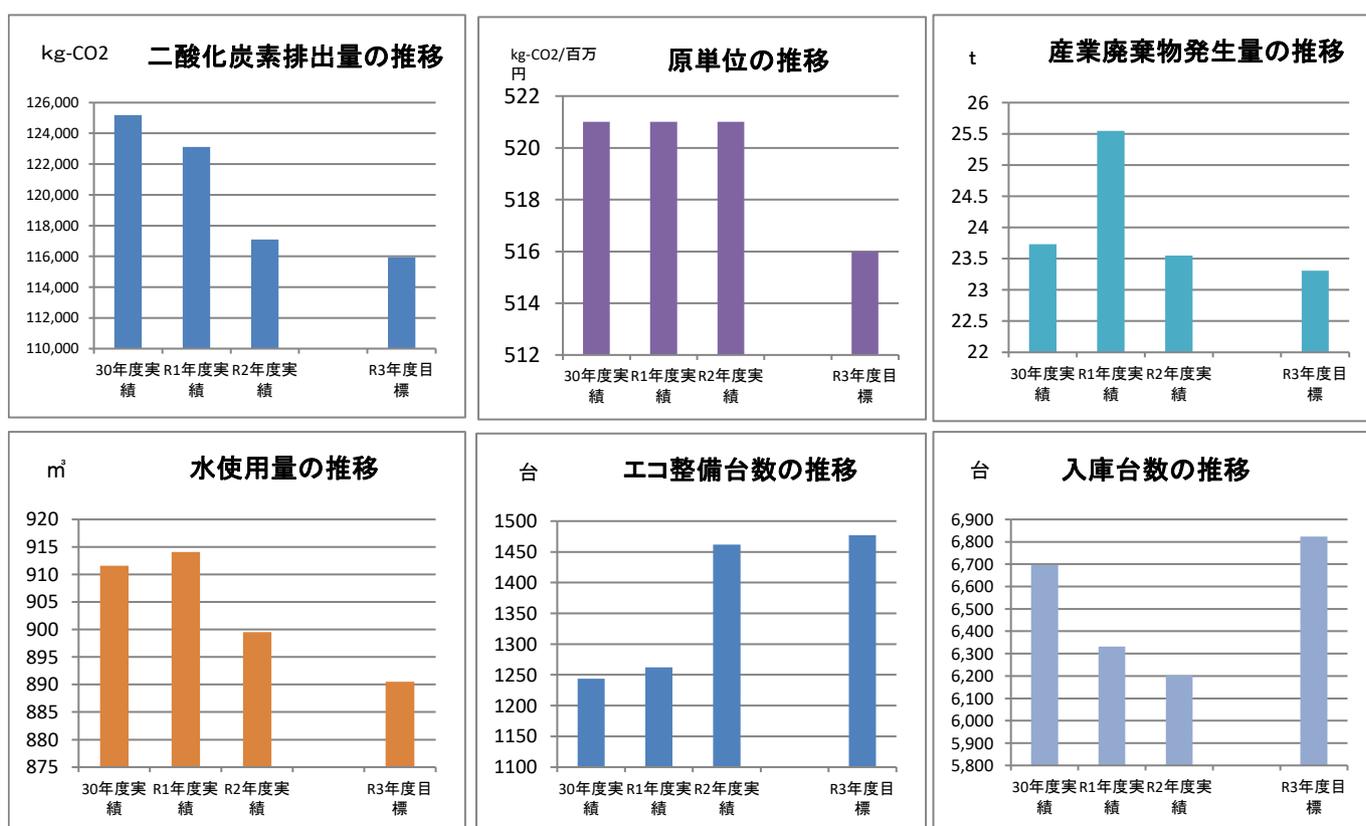
	単位	30年度実績	R1年度実績	R2年度実績	R3年度目標
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	125,181	123,122	117,105	115,934
売上高実績	百万円	239	233	204	206
原単位実績	kg-CO ₂ /百万円	521	521	521	516
産業廃棄物発生量	t	23.73	25.55	23.55	23.31
水使用量	m ³	911.6	914.1	899.5	890.5
エコ整備台数	台	1244	1262	1462	1,477
入庫台数	台	6,696	6,332	6,203	6,823

二酸化炭素排出係数は0.562(kg-CO₂/kWh) R3年度より変更

二酸化炭素排出係数は0.641(kg-CO₂/kWh)

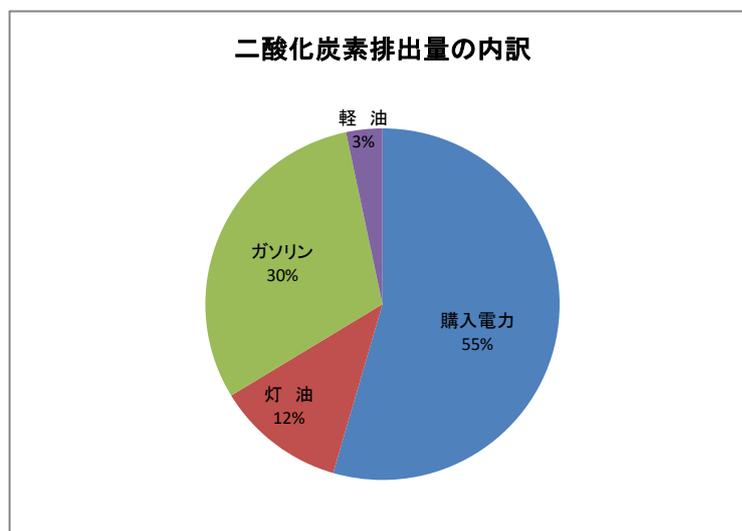
化石燃料排出係数は別表通り(指標)また使用量の目標実績は別紙表とおり。

産業廃棄物処理量及びエコ整備台数、水使用量とも別紙実績表とおり。



3-1. 令和3年度の二酸化炭素排出量の実績と内訳

	単位	3年度実績	割合(%)
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	111,388	
購入電力	kg-CO ₂	60,701	55%
灯油	kg-CO ₂	13,150	12%
ガソリン	kg-CO ₂	33,856	30%
軽油	kg-CO ₂	3,682	3%



3-2. 令和3年度の目標・実績・評価

		3年度目標	3年度実績	達成率(実績/目標)	評価
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	115,934	111,388	0.96	○
売上高実績	百万円	206	200	0.97	×
原単位実績	kg-CO ₂ /百万円	516	557	1.08	×
産業廃棄物発生量	t	23.31	17.62	0.76	○
水使用量	m ³	890.5	1012	1.14	×
エコ整備台数	台	1,477	1416	0.96	×
入庫台数	台	6,823	6,127	0.90	×

- ・令和3年度の二酸化炭素排出量の総量は増加したが、売上高百万円あたりの二酸化炭素排出量は目標を達成する事が出来た。売上高が増加したことと、照明のLED化や電力使用量削減の取組の成果が現れた。
- ・タイヤショップをOPENしたことにより廃タイヤが大幅に増加し、産業廃棄物発生量が増加した。
- ・構内の融雪に使用した井戸水が大雪の影響で増加しました。それ以外の期間でも節水に取組を強化する必要がある。

(二酸化炭素排出係数は0.641⇒0.562(kg-CO₂/kWh)R3年度より変更)

4. 令和3年度以降の目標値

	単位	3年度実績	4年度目標	5年度目標	6年度目標
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	111,388	11,274	109,171	108,079
前年比	%		99	99	99
売上高実績	百万円	200	-	-	-
原単位実績	kg-CO ₂ /百万円	557	551	545	540
前年比	%		99	99	99
産業廃棄物発生量	t	17.62	17.44	17.27	17.10
前年比	%		99	99	99
水使用量	m ³	1012	1002	992	982
前年比	%		99	99	99
エコ整備台数	台	1,416	1,430	1,444	1,458
前年比	%		101	101	101
入庫台数	台	6,127	6,188	6,250	6,313
前年比	%		101	101	101

二酸化炭素排出係数は0.562(kg-CO₂/kWh) R3年度より変更

- ①令和4年度以降の二酸化炭素排出量は令和3年度の実績を基準として毎年1%削減とします。
- ②令和4年度以降の二酸化炭素排出量原単位は令和3年度の実績を基準として毎年1%削減とします。
- ③原単位目標及び実績を算出するための売上高は、サービス部門の売上高とする。
- ④令和4年度以降の廃棄物排出量は令和3年度の実績を基準として毎年1%削減とします。
- ⑤令和4年度以降の水使用量は令和3年度の実績を基準として毎年1%削減とします。
- ⑥令和4年度以降のエコ整備台数は毎年1%増加とします。
- ⑦令和4年度以降の入庫台数は令和3年度の実績を基準として毎年1%増加とします。

5. エコ整備計画・実績

5-1. エコ整備・エコ車検の推進

自動車から排出する人体に有害な一酸化炭素、炭化水素、窒素酸化物、黒鉛等のほか、地球温暖化の原因とされる二酸化炭素による、環境破壊が大きな社会問題となっております。

当社では、自動車から排出される有害なガスを最小限に抑制するため環境にやさしいエコ整備に取組み環境に対する効果や、車両性能の向上において大きな成果を期待しております。

排出ガスの種類	主な発生源	影響
CO(一酸化炭素)	特にアイドリング時に多く発生する	血液の酸素運搬機能を阻害し、呼吸困難を引き起こす。
HC(炭化水素)	燃料の石油と燃焼排気ガスから発生	濃度が高くなると、粘膜を刺激するなど人体に有害、光化学スモッグの原因となる。
NO _x (窒素酸化物)	燃焼排気ガス	鼻やのどに刺激的な作用を起こす、光化学スモッグの主原因。
CO ₂ (二酸化炭素)	燃焼排気ガス	地球温暖化の原因となる。
DS(ディーゼル黒煙)	ディーゼル車の燃料排気ガス	微粒子が環境ホルモンと同じ影響を及ぼす。

(参考:カーコンビニ倶楽部資料)

エコ整備を自動車ユーザーに周知し、継続的に実施して頂けるよう、社員全員で取り組んでいきます

○エンジンオイル・オイルフィルターの交換及びエアクリーナーエレメントの交換・清掃

自動車の有害な排出ガスの削減、燃料消費量の削減、アイドリングの安定と静寂性の向上、エンジン始動性の向上、エンジン本来の性能のよみがえり。

抵抗の少ない低粘度のエンジンオイルを使用することにより、無駄な抵抗を減らし燃費の改善を行います。

○タイヤ空気圧の適正化(窒素ガス充填)

タイヤへの窒素ガス充填。窒素ガスは、タイヤから発生する振動・騒音を大幅に低減し乗り心地が向上するとともに転がり抵抗の低減により燃費の改善が図れます。



○環境対応型部品、商品等の導入に積極的に取り組んでいる。



サービスの受付付けカウンターに
エコ整備・エコ車検をPRしている



環境に配慮したエコ商品
エンジンオイル
バッテリー
タイヤ

実際にエコ商品を展示してお客様に認知度を高める



○交換部品が必要な整備について、ユーザーに対しリサイクル部品の取扱いが可能である旨の
情報提供を行っている。

社員全員が説明できるように、社内勉強を定期的実施している。
受付カウンターにチラシを貼ってお客様にPR

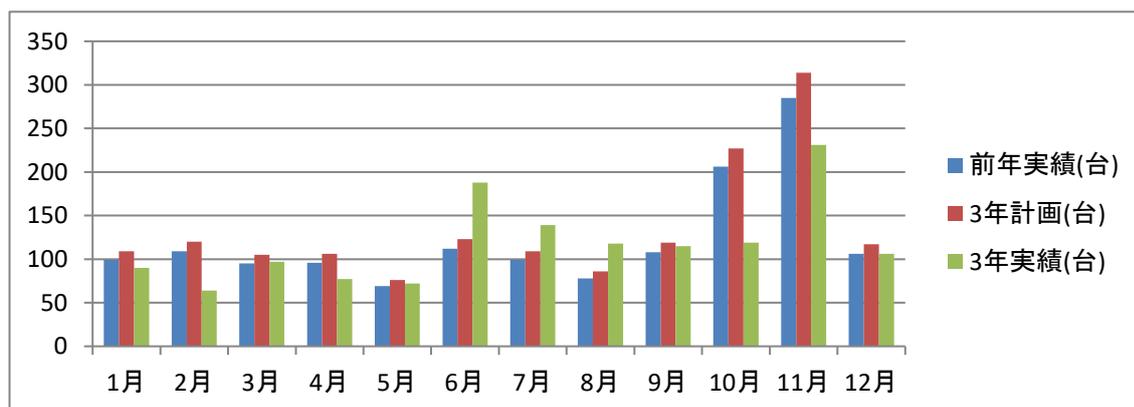


パンフレットなどを使って
お客様に説明

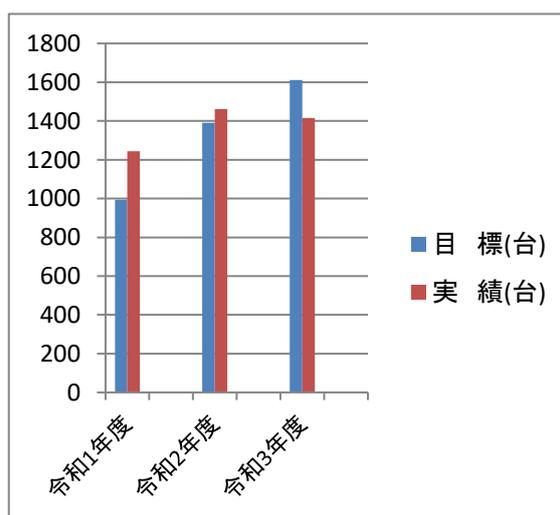
5-2.エコ整備目標・実績

1月～12月実績（台）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
前年実績(台)	99	109	95	96	69	112	99	78	108	206	285	106	1462
3年計画(台)	109	120	105	106	76	123	109	86	119	227	314	117	1611
3年実績(台)	90	64	97	77	72	188	139	118	115	119	231	106	1416
前年対比	90.9%	56.0%	102.1%	80.2%	104.3%	167.9%	140.4%	151.3%	106.5%	57.8%	81.1%	100.0%	96.9%



	令和1年度	令和2年度	令和3年度
目標(台)	994	1390	1611
実績(台)	1244	1462	1416
目標比	137.0%	105.2%	87.9%



令和3年度は、社員一人ひとりがエコ整備を推進し、お客様にPRしました。新規で数社と新規契約でき、前年及び目標を大きく上回ることができました。引き続き全員で取組んでいきます。

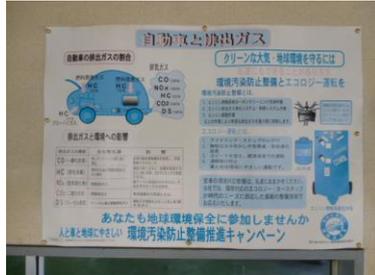


5-3.環境汚染防止整備(エコクリーン)にも取り組んでいます

《エンジン内部洗浄ーエコパワー・カーボンクリーニング》

1. 燃焼系統洗浄(燃料が燃焼する燃焼室内部のカーボンを除去する燃焼室内の洗浄作業)
2. 潤滑系統洗浄(エンジンオイルの潤滑系統の汚れと、ブローバイガス(燃焼室からの吹き抜けガス)で汚れたエンジン内部を洗浄する、潤滑系統内部(オイルフラッシング)の二つの洗浄作業があります。

この作業を行うことで燃焼効率を上げ、本来の性能に戻し、燃費向上を図ります。



【燃焼室内部に蓄積したカーボン】



この写真は、エンジンを分解し、燃焼室のバルブを外した画像です。

《エコチューンナップ》

エコアース配線

イグニッションコードアース加工、エンジン本体、発電機、コンピュータ等、バッテリーとの接続をボディアースではなく、直接専用のアース線で接続するアースング配線で、エンジンの燃焼改善から低・中速のトルクアップを始め燃費の改善・有害なガスの減少が期待できます。

アース取り配線により環境性能大幅向上



(アースコード追加接続例)



6. 環境経営計画(次年度(R4年度)の取組)

環境理念に基づいて地球環境をスローガンに社員が一人ひとり責任を自覚し環境負荷の低減に配慮した活動に取り組みました。

今年度も、昨年の実績をしっかりと分析し、目標達成するために以下の活動計画をしっかりと推進します。

1. 二酸化炭素排出量の削減

事業所内の整理、整頓、清掃に留意し事業活動において電力購入、ガソリン、軽油などの削減による二酸化炭素排出量削減に努める。また、エコ整備の普及拡大を継続的に推進する。工場内のエアコンプレッサーのエア漏れ点検、温水洗車機・照明器具等の取扱い管理、事務所・ショールーム等の空調管理、照明及び事務機器の取扱い管理の徹底
お客様に提供するサービスの徹底(空調関係の理解、飲み物等の提供等)

2. 産業廃棄物排出量の削減

事業所からの産業廃棄物排出量を最小限にする努力する。また、そのために分別処理を徹底し、各担当者はしっかりと現状を把握する。

コピー紙の裏面使用が結構増えました。

3. 水使用量の削減

事業所内での水使用量、排水量の削減に努める。特に洗車時の使用量、トイレ・洗濯・流し台での使用量、冬季の融雪装置による使用量に配慮する。

融雪装置の使用状況に注意し、使用時間を考える様になりました。

4. エコ整備・エコ車検、エコ車両の販売の推進

社有車の確実な点検整備と一般ユーザーへのエコ整備・エコ車検についての有用性について確実な説明と理解をして頂けるよう、社員教育の実施と入庫促進。

一般ユーザーのエコ整備の認知度が高まり、リサイクル部品の使用量が増えてきております。

5. リサイクル活動における省資源化の推進

グリーン購入による再生紙、事務用品の使用やリサイクル自動車部品の使用を積極的に推進する。(再生部品、リビルト部品の使用による低価格化)

6. エコドライブの推進

社員のエコドライブに関してはかなり推進してきましたが、お客様に対するPRをもっと強化し地球への思いやりを広めていく。

※(令和3年度の環境活動計画・チェック表は別添参照)

7. 環境経営計画の取り組み結果と評価、次年度の取り組み内容

令和3年1月1日～12月31日

(○良好 △不足)

作成令和3年1月20日

	具体的取り組み内容	評価	評価、次年度の取り組み
二酸化炭素排出量の削減 購入電力使用量の削減	空調温度管理(冷房28度・暖房20度設定)	○	今年の7月は初夏の気温が厳しく、エアコン使用率が高く消費電力を抑える事が難しかった。また、11月の寒波が長く続いたので、設定温度を抑えることが厳しかった。機器等の電源や、エアコンプレッサの電源等は、しっかりとON・OFFが出来た。
	照明の管理消灯の徹底	○	
	昼休みの照明消灯の実行	○	
	全国電力不足につき省エネ努力	○	
	機器等の電源OFFの徹底	○	
	エアコンプレッサのエア漏れ	○	



二酸化炭素排出量の削減 ガソリン、軽油、灯油、削減	エコドライブの実施	○	年間を通してかなりガソリンの消費量を削減することが出来た。特に2, 3月の繁忙期に抑えることが出来たのが良かった。引き続き、社員はもとよりお客様にもエコドライブを推進していきたい。
	急ブレーキ急発進の禁止	○	
	アイドリングの低減	○	
	社用車のエコ整備の徹底	○	
	車両洗車機器の使用短縮	○	



産業廃棄物発生量の削減 自社工場での発生物	廃棄物の発生量を最小限に	○	産業廃棄物の分別等がしっかりと出来るようになり、成果が出てきていると思います。しかし、タイヤの販売本数が増えたとどうして廃タイヤが増えてくる。お客様からしっかりと廃棄処分料金を請求し、お客様の理解度アップを目指す。
	廃棄物の分別処理の実施	○	
	金属類を分別し回収業者に	○	
	廃プラを分別し回収業者に	○	
	廃液分別し回収業者に	○	



	具体的取組み内容	評価	評価、次年度の取組み
水使用量の削減 自社地下水使用 アワメーター取付測定	節水ステッカー貼り付け実行	○	各所に節水プレートを貼ることにより常に社員が節水を意識できる環境を創っている。今年は11月の寒波が厳しく、融雪で水量が増えてしまった。洗車時の節水は、社員それぞれが意識している。
	洗車機使用時間の短縮	○	
	ワンストップノズル取り付け	○	
	融雪装置使用の調整と短縮	○	
	トイレの貯水タンクにボトルを入れる	×	



エコ整備・エコ車検の推進 社内教育の充実を図り、 ユーザーに的確に説明し 理解して頂けるよう推進する	法定1・3ヶ月点検の促進	○	社内勉強を定期的に行う事で、社員の意識も高くなってきている。また、お客様にしっかりと説明が出来るように、さらに継続して勉強会を開催していく。
	環境汚染防止整備の促進	○	
	エコ車検の促進及び教育	○	
	ポスターのぼり旗によるPR	○	
	エコ整備の料金の値下げ	○	
リサイクル活動による 省資源化の推進	省資源化のための再生紙・事務用品	○	省資源化に対する社員の意識向上に引き続き取り組んでいく。お客様に対するリサイクル部品の使用を推進するとともに、お客様の理解度にも努力する。
	社員全員で取り組む	○	
	ユーザーに対する説明と理解度	○	
	リサイクル部品積極的に使用	○	
	リサイクル部品使用のPRする	○	



○『ロータスクラブ・秋の大感謝祭2021』及び
 ○『カーケア&タイヤショップ』キャンペーン開催（2週間延べ来場者数：144組190名）

日時：令和3年10月23日（土）～11月6日（土） 午前9：00～午後5：00（コロナ禍により、イベントは中止）

趣旨：お客様にはロータスクラブの知名度アップと日頃からの感謝の気持ちを込め、社員全員で取り組みました。

☆スタッドレスタイヤの早期受注！！

- DM送付 : 883枚
- 訪問告知 : 48件
- ポスティング : 617軒



ガラポン抽選会やゲーム大会
 期間中、豪華成約プレゼント！！



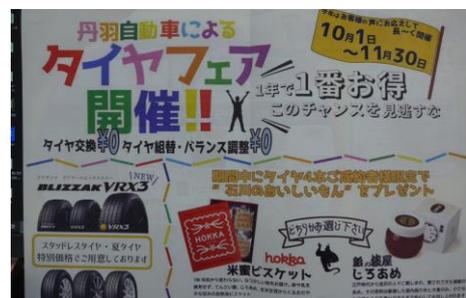
スタッフの、前日の打合せはしっかりと！

キャンペーン期間折り返しになると

TELコール作戦で来店を促す（密にならない様に）

★来場者プレゼント・ガラポン豪華景品や
 ご成約人気お菓子のプレゼントを告知して！

★キャンペーンを実施している雰囲気工夫！



8. 環境関連法規の順守評価と違反訴訟等の有無

法規名	順守事項	当社の順守内容	チェック日
廃棄物処理法 (廃掃法)	運搬・処分は許可を受けたものが行方	契約書(許可証、有効期限のチェック)	R3.12
	廃棄物処理状況の報告 (前年度実績を4-6で報告を)	マニフェスト管理台帳の報告	R3.12
	マニフェスト管理	帳簿の作成 マニフェスト管理台帳	R3.12
消防法	少量危険物貯蔵所の届出	エンジンオイル、廃油の貯蔵所	R3.12
騒音規制法	特定施設設置届出と騒音対策	コンプレッサー(7.5kw)1台の防音室	R3.12
振動規制法	特定施設設置届出と振動対策	コンプレッサー(7.5kw)1台の防音室	R3.12
自動車リサイクル法	使用済自動車の引取業者登録	引取業者の登録(石川県) 引取、移動報告(マニフェスト)	R3.12
フロン排出抑制法	簡易点検の実施及び設備の維持管理	店舗用パッケージエアコン(4台) 3か月に1回以上の簡易点検の実施	R3.12
水質汚濁防止法	特定施設としての設置届出	自動式車両洗浄施設の維持管理	R3.12

環境関連法規の違反及び苦情等はありませんでした。

なお、関係当局より違反、訴訟等の指摘は過去には一度もありませんでした。

環境関連法規に関しては自らが定期的に順守状況をチェックしています。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

環境への負荷チェック表をしっかりと記入していく事で、毎月の二酸化炭素排出量を把握できエネルギー使用量や産業廃棄物の量などしっかりと把握でき、その量に伴う料金等も把握できるので活用しやすくなりました。

社内教育に関しては、今年は様々な研修やセミナーが開催されている中、コロナ禍の影響でZoomでの開催が増えており社員が参加しやすい環境であった。できるだけ多くの社員が受講でき、一人でも多くの社員が勉強できたことは良かった。

タイヤの販売量が増えるにつれて、廃タイヤの排出量がかなり増えてきている現状があり、エコ整備の台数が増えると産業廃棄物等が増えたり、作業時間が伸び残業が増える事で、消費電力とも増えたりと、色々と考え深いところもありますが、社員一人ひとりが環境に対する取り組みを理解し意識し続ける環境を、これからも進めていきたい。

二酸化炭素排出係数を令和3年度より、0.641⇒0.562(kg-CO₂/kWh)に変更致しました。

令和4年1月20日

株式会社丹羽自動車工業
代表取締役 丹羽 昭広